

第6日

令和6年12月10日（火）

午前11時10分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 皆様、おはようございます。私はいつもどこかに行くたんび、甘木のバスは、こっちにも回れんとな、こっちにも回れんとなち、いろんなことを言われます。不便だとか、いろんなことを言われますが、やはり私たちは、いつでも行きたいときに、行きたいところに行くためにはどうすりゃいいのかちゅうたら、やはり車の運転が必須です。車の運転免許証が必須です。

しかし、高齢となり、これから先ですよ、高齢となり、運転免許の返納を考えるだけではなくて、高齢でも運転能力を上げることに力を注ぐべきではないかと考えております。

逆走や踏み違い事故は、高齢者特有の事故ではないそうです。若い者にもあり、誰でも間違ふ事故だそうです。そして、車の運転は、解析と指導で、高齢者であってもその能力は上がるそうです。これは、安全運転管理者講習の折に話されたことです。

要するに、高齢者であっても、自分の運転能力を把握して訓練を受けることで、運転はいつまでもできるというふうなお話でした。

ふと考えると、朝倉診療所の誕生日健診が、予防医学に大きな成果を果たしたように、誕生日に運転の解析と指導が受けられるような仕組みづくりがあれば、高齢になっても安心して運転が続けられるのではなかろうかと思いました。

そして、そんな朝倉市で、高齢者がいつまでもどこでも行けて、楽しく暮らせるような、そんなまちづくりがあればと思っております。そんなことができればいいなと思います。

今回の一般質問は、行政視察地、米沢での私の失敗や感動を報告し、我が市に生かすことができればと考え、この一般質問をすることにしました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

（14番柴山恭子君降壇）

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員。

○14番（柴山恭子君） 私は、小さい頃に父と母に連れられて、以前は丸山公園と呼んでおりましたが、丸山公園に、ぼんぼりの下がったきれいな桜の公園に、小さいから桜というよりも夜店を楽しみに行っていたことを思い出します。

丸山公園は、そのことを考えると60年以上前ですよ。小さい頃だから65年ぐらいになるかもしれません。それで、丸山公園のあの桜ちゅうのは、65年よりもっと前に整備されたものなのではないかな。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 甘木公園の桜が一番古いものでどれぐらいかというのが、ちょっとなかなか把握しておりませんが、状況を見ますと50年はもう超えている桜もあるというふうに思っておるところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それはそうです。私が70。50年ちゅうたら23じゃけ。もっと前にあの公園は整備されたはずです。

そして今、あの公園は、ジョギングコースとか、それから、噴水、それから、デッキ、いろんなことが整備されて、運動公園としても、また子どもたちの遊園地としても、非常に市民の皆さんに楽しまれており、皆さんには、こういうふうに整備していただいたことを心より感謝しております。

今は、甘木公園ですけど、甘木公園は桜の名所ですから、その桜の寿命がどれぐらいなのか、今後ともきれいな公園を持続させるためにはどうすればいいのかを質問いたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 甘木公園ですけども、議員おっしゃっていますように、県下屈指の桜の名所としても知られておりまして、市民の憩いの場となっているような公園でございます。

園内の桜の多くについては、ソメイヨシノでございまして、先ほども申しましたが、樹齢50年を超えると老木の域に入るというふうに言われております。甘木公園内の桜の多くは、老木化が進んでいる状況にあるというふうに思っております。

特に、桜の植え替え等につきましては、園内を巡回いたしまして、市内外からの来訪者が安心して時間を過ごせる憩いの空間となるように、令和5年度から計画的に行っているところでございます。

今年11月には、甘木公園を美しくする会をはじめ、各種団体等の御協力をいただきまして、多くの市民が参加され、51本の桜の植樹活動が行われたところでございます。

また、来年度につきましては、事業所から受けました寄附金を活用いたしまして、桜の健全度調査等を行う予定でございます。今後も桜の植え替え等について、計画的に取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 桜が、50年で老木となったとする。甘木公園が、60年か70年前に整備されたとすれば、今、甘木公園にあるソメイヨシノは、もう大体全部が枯れてしまってもおかしくないかちゅうほどの年を食つとるような気がします。だから、定期的に何本ずつ植え替えようとか……

もう一つ、ソメイヨシノは、全滅するのではないかということも言われております。品種的に、あんまり増えすぎたのか、何か分かりませんが、ソメイヨシノがだんだん駄目に

なっていくという話はよく聞かれますので、今後の計画の中で何を植えるのか、今年、何本植えるのか、そして、どういうふうにして、この甘木公園の桜を守っていくのか、その計画が必要だと思われませんが、そのあたりお願いします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） これから公園を管理していく上でも貴重な、御参考にさせていただきます。

それで、計画的に何本ずつやっていくのかというところでございますけれども、今のところは予算の範囲内ということで、可能な限りやっていこうということで考えております。

また、老木化、その辺、調査いたしまして、計画を持った管理をやっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくをお願いします。

もう一つは、これは住民からの意見です。水飲み場の排水がえらい悪くて、下がべちょべちょして、スニーカーでは行かれないだとか、草がえらい茂ってベンチに座りにくいか、そういうお話が出ておりましたので、申し訳ありません。私は、それをちょっと調査に行こうとは思いましたが、まだ見ておりませんので、今後、調査に伺いたいとは思いますが、市のほうで、もう一回そこを調査し、水飲み場の排水の在り方、それから草切りのボランティアの在り方とか、いろいろ考えてほしいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 公園内の施設、今、水飲み場のことをおっしゃっていただきましたけれども、これにつきましては、現地を確認しまして、逐次、施設管理という形で改善していきたいというふうに思っております。

あと草刈りにつきましても、草の状況を見ながら計画的に行っているところでございますけれども、なかなか草の生育も早くて対応ができていないところもございます。

今回、先ほどもボランティア活動ということでございますけれども、市民の皆さんと協働して公園管理ができるような、何かそういった方策がないかということは考えていきたいなというふうに思っているところです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） ちなみに夏場の立石コミュニティ前の広場は、20日に1回のボランティアの草刈りとなっておりますので、草を生やさないためには、やっぱり早め早めの草刈りが必要だと思われま。

次に、市道の舗装の点検についてお尋ねします。

さっきの米沢の話ではありませんが、私は当時、雨で暗かったので、スニーカーを履い

ておりましたので、低いところを歩かなくて、歩道の上をどんどん歩いていっておいりました、靴が濡れたくなかったのです。

歩いていって、90度に曲がって、ちょっと歩きますと、先のところが歩道ちゅうか側溝がなくなって、なくなったわけじゃないけど大きい網になっておりまして、それに気がつかず、ひっくり返って顔を嫌というほど打ちました。

みんなが、えらい心配してくれました。特に事務局は、心配しようが尋常じゃなくて、早う病院に行け、早う病院に行けと、えらい言われましたが、その米沢で整形外科の先生がいらっしゃって、その先生に顔中ばんそうこうを貼ってもらいました。それは面白い顔になりました。大分よくなりました。

翌日、米沢市長にお会いしたんですが、朝倉市の名前も私の顔もしっかり覚えていただきました。考えようではよかったのかなとも思います。

やっぱり、その市長が言われたとは、「すみませんでした。もう県外の方には、この豪雪地帯の雪を落とすところの側溝の様子は御存じなかったでしょう」。それは地元の者なら誰でも知っていること。雪を落とすために、その溝の穴が開いとるのは。たまたま知らなかったから、そういう事故が起きたので。

でも、私も朝倉市のことをふと思ったときに、これは熊本議員が、たしか建設課長、いつのことか忘れましたが、建設現場の歩道の90度の一角だけが側溝がなかったところがあったんです。これは、住民がそこに落ち込んで足の骨を折りました。だから、何としても側溝の点検は必要なんですよね。

そういった目で見てみると、側溝があって、その先が急に狭くなって、そこは穴がぽっこりほげとるところもありますので、危ないところ、地域の皆さんから、ここが危ないとか、こういう側溝は駄目だとか、そういうことは報告があると思いますので、点検がやっぱり必要な。

もう一つは、がたつくのも駄目なんですよ。がたがた異常にすると、そこに引っかかってしまって転んでしまいますので、何かそこら辺の点検をお願いしたいのと、ずっと前に大きな溝に人が落ち込み、それに気がつかずに、明くる日になってしまって、寝たきりになった方もいらしたんですよ。

だから、そのときは、ポールを溝のところにずっと立ててもらいましたので、ポール1本でも側溝のところは危ないですよちゅうのに気がつくと思いますので、そういうポールの設置など危ないところ必要があると思うんですが、どうでしょうか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 市道の維持管理につきましては、私どものほうで常時道路パトロールを行いまして、危険箇所を発見すれば補修等の対応を行っている状況でございます。

また、議員おっしゃいますように、地元コミュニティ、それから、区会長、市民の皆様

からの通報等によりまして、職員が現地確認を行い、必要に応じて注意喚起のポールを立てるなど、対処できることから改善をしているという状況でございます。

市道の延長は相当数に及びまして、全ての危険箇所を行政のみで把握するというのも非常に困難な状況でもございます。今後とも、地元コミュニティとの点検協力を得るなど、連携を図りながら安全に通行できる道路管理に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どうぞ、それをよろしくお願いします。

先日のコミュニティ役員会の中でも、排水が悪いとか、あそこの、特にそのときはけやき通りの話だったんですけど、ケヤキが側溝の中に入り込んでしもうて、道を流れる水が、側溝の中に入り込まないと、そういう話はさんざん建設課のほうにはしているはずだけど、なかなか回答はないというようなことも言ってありましたので、皆さんの意見を聞いて、じゃあこういうことにしましょうかというような話し合いを住民にしていきたいと思うのですが。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 私どもも、再度、現場をよく確認しまして、そのことについては、住民の方の御説明というのは十分させていただきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしく願いいたします。

次に、学校教育についてお尋ねをいたします。

その米沢の行政視察で、子どもたちの郷土を思う気持ちにえらい感心させられました。

まず、上杉鷹山の教えを取り入れた道徳教育の成果なのか、よくは分かりませんが、成果なんでしょう、多分。この鷹山公の道徳の教育を教えた成果なのだと思います。

体育館には、小中どの学校にも上杉謙信公と鷹山公の写真が掲げてあり、米沢では、誰でもが尊敬する人物として彼らの名前を挙げるそうです。一人、二人ではなくて、あなたの尊敬する人は誰ですかと子どもたちに聞いても、この2人の名前が挙がるほどに、米沢ではみんなの心にしみる方々となっているようです。

先日、三名君フォーラムの折、秋月中の生徒による稽古館の教えの暗唱がありました。秋月では、これを教育活動の礎とされているかと、これまた感心をいたしました。

先日、南陵中学校でも学社連携による発表会を行ったのですが、夏休み明けから11月、3か月間の練習なのですが、私の担当する能楽の子どもたちは、全然正座ができなかった。それは毎年のことです。全然正座ができなかったのに、正座ができるようになった。

音楽は習うけれど、謡は習わない。何が何やら、歌詞の文句も分からない。何を言いよるやら分からない。私は、大きな声を出せ、大きな声を出せと怒るばかり。

そんな中で、きちっと謡を謡い、そして今まで触ったこともない能管、鼓、大鼓、太鼓

などもちゃんとやって、立派な発表会となりました。

これは、能楽だけではありません。ほかの獅子舞いにしても、それから都方言にしても、太鼓にしても、子どもたちは、この何か月の中で一生懸命しながら、やってもいけないことをきっちりとやり上げるすばらしさに、子どもたちの吸収力のすごさを感じました。

聞くのですが、子どもたちの心に響く教育とは、目指す子ども像とは、また何のために学ばせようとしているのかを尋ねます。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） まず、何のために学ぶのかといったことからお答えをさせていただきます。

本市では、ふるさと朝倉を愛し、社会に貢献できる子どもの育成というのを学校教育目標に掲げております。これは、目指すべき義務教育の在り方を基に、朝倉市の実態に即して設定をしております。

この目標の達成に向けて、子どもたちは、将来はふるさと朝倉に何かしら貢献をしたい、変化の激しい社会の中で自分のよさを生かせるようになりたい、将来の夢や目標に向かって挑戦を続けたいといった自立した大人になれることを目指して、日々の生活に励んでもらっているといったところでございます。

教育委員会のほうが目指す子ども像といったものにつきましては、先ほどの目標達成に向けて、キャリアモデルとなる人物を通して学習活動を行っている学校もあれば、郷土の自然や歴史、文化、産業を基に学習活動を行っている学校もあります。

つまり、学校の財産である地域の特色に合わせて、それを生かした学習活動が展開をされているといった状況でございます。

ですから、先ほど米沢市の例を御紹介ありましたが、朝倉市全体で統一したものというよりは、各学校ごとにそれぞれの地域の特色を生かしたものという形で教育のほうを行っているといったところでございます。

心に響く教育といったことにつきましては、なりたい自分、ありたい自分を見つけることができた、憧れの人物を見つけた、できることが増えたといった自立した児童生徒となる教育、豊かな感性を養う教育であるというふうに考えております。

各学校のほうでは、子どもの実態に合わせ、誰一人取り残さないことを大切にした授業改善に努めたり、キャリア教育や道德教育の推進を行ったりといったことに取り組んでいるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 何ちゅうたらいいのか、どういうふうに質問したらいいのか分からんけれど、今、学校や先生たちや教育委員会が、子どもたちの心に、どれくらい響かせようとしとるのか、子どもが何か言うたときに、その子どもがどんな気持ちを持ってそれを言えるのか。

私はこう言ったんですよ。校長に、稽古館の教えちゅうのは、どこの学校でもできんとね。それを朝倉市の方針として、そんなことはできんとねっち言いましたら、できんじやろうち。そのために校訓があると。校訓を基にした、それには学校独自の教育を自分たちは行っていきたいと思うとるち。また、校長、校長によっても、体力を上げたいとか、挨拶をさせたいとか、いろいろな努力目標があって、それを基にした教育を子どもたちにはやろうと思っということを聞きましたが、大きく、教育長、立石小学校の校訓は何でしたっけ、自立。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） たった、3つあったとやん。自立なんていうかな。

その校長の言う学校に合わせたような教育ちゅうなら、子どもたちに毎日、自立なんかかんととか、遅刻はしないとか、これだから朝御飯は食べてこようとか、早寝早起きをしようとか、心にきっちりしみ込むような教育が一つあってもいいのではないかと私は思ったんですよ。

例えば、朝倉市の子どもたちは、なぜか知らんけど、みんな人の顔を見ると、大きな挨拶ができよるばいち。これは何じやろうかち。どこの学校でも、まずは子どもたちに挨拶をしなさい、誰にでも大きい声で挨拶をしなさいという、これもこれも、最初、部長が言われた、ふるさと朝倉を愛すよね。それ、もうふるさと朝倉を愛することはこういうことよっち。きちっと子どもたちに分かるような、そんな教育方針であってほしいと私は思った。

何とか、何か漠然とこうなったらいいですよ、この人はすばらしいですよちゅうじゃなくて、きちっとしたものが、大体、私は教育は素人やけん、たまたま米沢に行って、すごいなと思ったと。みんながそういうふうと思うことはすごいっち。

朝倉市でも何か一つでいい。挨拶をできる子どもたち、挨拶が一番いいとは思うけれど、誰でも能力があってもなくてもできるのは挨拶です。大きい声を出せば挨拶もできるし、それは頑張って頑張って運動能力を上げて、いろいろするのもえらい大事だけど、やはりそういうふうの一つでいいと。優しい心を持つためには、こうよっち。いじめは絶対せんよとか、そういうふうになんかね、私の言う心に響く教育とは、そういうことと思うとるけど、違いますかね。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 議員が視察に行かれた山形県の米沢市。これは、林市長、実は積極的に取り組まれておりまして、この米沢市と強い関係を構築していこうというふうに今も考えて当然おられますし、私たちもそうでございます。

教育に関しましても、まだ私自身この米沢市と高鍋町、恥ずかしながら、まだ行った経験がなくて、もう一日も早く行きたいなというふうに考えているところでございます。

議員が申されましたすばらしい教育をなされているというのは、いろいろな方から見聞

きをしております。確かに大変すばらしい教育ではないかということが考えられます。

何のために学ぶのかと、これは教育に関わる人間としては究極の命題でございます。様々な答えがあると思うんですけれども、自分のため、または家族のため、社会のため、いろんな目的があって学ぶというところでございます。その目標を達成するためには、やはりちょっと格好つけた言葉ですけど、内発的動機づけというのが大事ではないかと考えております。

米沢では、この鷹山公とか謙信公、これをモデリングをして、暗唱などを通して心にしみる教育をずっと長い間してこられた結果が、この前、視察に行かれて感動されたのではないのかなというふうに感じております。

画面にも出ておりますが、本市におきましても、遅れてはいますけれども、遅れまして3年前にこのような令和の教育十訓というのを初めて全小中学校に周知をいたしまして、取組をお願いしているところでございます。

ただ、これにつきましては、まだまだ周知をしているレベルでございまして、これをいかにそれぞれの学校の先生方、または子どもさん方が理解をしていただいて浸透しているか。

ただ、毎年検証をさせていただいて、年々数値的には上がってきていると、それぞれ1個1個のというのは実感をして、本年が今年で3年目になりますので、楽しみにしているところでございます。

確かに、10個ありまして、たくさんあるんですけれども、今の教育の中で非常に大事な子どもたちの行動規範の基本的なものを簡単に小学生でも分かれるような形で周知をお願いしているところでございます。

やはり心に響く、心に残る教育というのは、当然必要です。そのためには、議員が言われましたように、やはり体験、やっぱり実体験が大事です。そして実感、子どもたち自身が実感をする、そういった体験を、今までコロナ禍で非常にこれが削除、なくなってきました。それをまたもう一度起こすかというところで、今学校教育は境目になっております。

そういった1回覚えたやり方でいくのか、それとも、いやもう一度リバイバルで昔のやり方できつい体験、子どもたちに少しでも、少しやっぱり負荷をかけて体験をさせる。そこから達成感を得て子どもたちに喜びを味わせたいという考え方も当然ございますので、やはり体験活動というのが1つはキーワードとして、教育委員会としては考えているところでございます。私個人的にもそういうふうに考えているところがございます。

まずはこの教育十訓、令和の教育十訓、これが全小中学校で周知して、子どもさん方がある程度分かっていただけ、また、こういう行動ができるような形ができればいいという形で、指標という形で今つくっているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 令和の教育十訓、これを子どもたちの胸にどうしみ込ませますか。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 本当は、個人的には、例えば、毎朝各教室と、また毎月全校集会等で体育館で唱和するとか、そういったのを個人的には考えていたんですけども、そこまではまだ学校のほうには、お願いはしていないところでございます。

学校それぞれで掲示だけをしていただいているところ、またはいろんな集会等で校長先生がお話をしていただく。学校によって差がある、そういったところがあるのは否めないところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） ちなみに、教育十訓を暗唱するためには、何分かかりますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 二、三分程度かなとは思いますが、暗唱してみましようか。（発言する者あり）

令和の教育十訓。早寝早起きをしよう、朝食をしっかりとろう、家の手伝いをすすんでしよう、興味・関心を持って授業に参加しよう、みんなと考えを出し合い、見方や考え方を広げよう、心を こめて掃除しよう、笑顔であいさつしよう、こまったときは相談しよう、約束やきまりを守ろう、SNSの正しい使い方を身につけよう。

そう長くはかからないかと思うんですね。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 30秒です、30秒。朝の朝礼のほんのひとときの間、小学校が6年間、中学校が3年間、これを毎日毎日言い続けることは可能ではないのですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 先ほど教育長も申し上げましたとおり、まだ学校全体にこれを唱和しろというようなことでの指示等はできていないところです。

先ほど議員のほうもおっしゃいましたとおり、秋月中学校とかでは、稽古館の教えというのを暗唱したりといったことの別の取組をやっている学校もございますので、なかなか今の時点では全校にという形ではできていないといった状況でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私は、秋月中学校の稽古館の教えを聞いたときに、遅刻をしないというのもあったね。中になんか遅刻、あったような気がします。そのときに黒田の殿様が、私は遅刻をよくしますと言われたのは、えらい印象的で、そういうことかと思ったけれど、やっぱり毎日毎日繰り返しやること。それは、校訓のことでもいいし、でも、私はせっかく教育十訓があるのなら、朝の1分間だけでも、朝倉の全小中学校の子どもたちが卒業するまでに、誰でもかれでもこれが言えるような教育方針であってほしいと思いますし、その上であって、また学校独自の教育があったらいいなと思います。

私たちが、南陵中学校で教えたときには、もう頭ごなしに言いました、覚えろと。覚え

るほか手がないと、教えようがないと覚えんと。したことがないんですから。

それと一緒に、道徳教育ちゅうのも、いろんなことを考えずに、頭ごなしに、とりあえずは教える、頭ごなしに口に出して言う。このことが非常に大事だと思いますので、令和の教育十訓と書いてありましたが、令和じゃなくなったら変わるのかとは思いますが、この教育十訓ちゅうのを、こういう方針で行こうと教育委員会として決められたのなら、各学校にぜひとも通達して、これを進めるべきではないでしょうかね。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） この令和の教育十訓は、最初私が考えさせていただいて、それを教育委員会内等々で検証して、こういった形でつくり上げさせていただいております。

本当は、各学校が工夫されて、いろんな取組をしていただきたいというのが願いとして私個人としてはあるんですね。

ただそれが、まだ学校独自で、いろいろ考えていらっしゃるところが多くないということには、やはりこちらからこう言うべきかどうかというのは、また別の問題が出てきますので、やはり学校の先生方、子どもたちが頑張ってやろうというような形にさせていただきたいなというふうに考えているところでございます。

すみません、ここまでぐらいしか言えませんが。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それは非常に難しいことです。子どもたちから進んで、それはもう一番いいことです。一番いいこととは思いますが、なかなか難しい。

早寝早起きできん子どもに、自分から進んで早寝早起きして、朝御飯を食べていく子どもにさせろうと思ったら、無理たくりでも早起こさないかんし、無理たくりでも朝御飯早う食べんかちゅうて出さないかん。そして、その積み重ねの中で、やっと子どもたちは、私は成長していくのではないかと思います。

これは、私ごとですが、ある人がこう言いました。私は、その日のうちにしなくてはならない掃除とか仏様事とか何やらかんやは、幾ら遅くなっても必ずその日のうちにしてしまう。

なぜかといえば、あくる日の予定が立てられないから、あくる日の予定をスムーズにやるためにも、必ずその日のうちにやるようにしておく。

例えば、漬物を漬けたいと思ったら、この前、立石の文化祭で、彼女は私たちにたくあんの新漬けを漬けてきてくれたんですが、たくあんを漬けようと思って夜が11時になったら、なったけれど11時からたくあんを漬け始めたと言うんですよ。

そういうふうに、その人の話を聞いて、私も今日は掃除はしたくないなと思って掃除をせんやった日も必ず夜に掃除をすることにしましたし、何かこう問いかけられる、そして、先生たちがこうしようではないかと強く呼びかければ、子どもたちはそれに応えることができるかと私は考えているんですよ。

何せ今の中学生は正座ができない。その5分もできない。そのできない正座がたった何か月で20分も正座をするようになったちゅうことは、子どもたちの能力は非常に高い。

だから、何ちゅう、押しつけ教育は駄目だとか、いろいろ言いますよね。でも、まずは、子どもたちに実行させることが最初だと思うんですよ。

だけん教育長、いろいろなあれもありましょうが、校長会というのもありよるんとでしょう、月1回。その校長会の中で、何とか自分はこの教育十訓を子どもたちの中にしみ込ませて、そして、それを基本としたような学校独自の教育をしていただけないだろうかちゅうことも言えませんか。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 検討させていただきます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくをお願いします。

次に、立石小学校整備についてお尋ねします。

もう廊下は広いし明るいし、便所はきれいになったし、すばらしい立石小学校の増築工事です。先日、中を見させていただきました。何でこげん遅うなったとかは思います。教室が足りないことは、さんざん言ってきましたし、職員便所が少ないこともさんざん言ってきましたが、これでやっとトイレの整備ができて、先生方も休み時間にはさっとトイレに行けるのかなと思ひながら、えらい安心をしたところです。

それで、今工事中ですので、低学年の中庭に昔あった鳥小屋があつて、ウサギも飼うとつて、土管のごとあるとが埋めてあつて、中に潜り込んで遊んだり、あとシーソーがあつたり、くるくる舞う、そういうような遊具がたしかあつたと思います。

それが撤去をされているんです。やっぱり工事のために車も入らないかんし、あそこは全部鉄板が敷いてありましたので、そのためにも遊具の撤去は必要だったと思われませんが、今後、あの撤去した遊具はいつ戻されますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 中庭の遊具につきましては、工事前に一旦移設し、工事完了の後、元の場所に戻すということも検討はしておったんですけれども、工事前の遊具の点検において顕著な劣化等が見られたため、これについては撤去をしたといった状況でございます。

今後、中庭につきましては、広場としての活用を考えているといったところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 活用ということは。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 具体的には、もう遊具の設置はしないといったことでござい

ます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それは駄目です、それは駄目。だって、立石小学校の人数何人だと思います。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 770名程度というところ。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そういう考えであれば、遊具はなくてもいいちゅうことですよ。770人の、来年は多分、もう1年生は5クラスになるというような話も聞いておりますので、中庭は低学年にとって大事な遊び場なんです。それを撤去して、ただの広場だけとして使うには、ちょっと駄目です。

何としてでも、あそこは子どもたちの遊び場になるようなところでないと駄目だと思いますので、ちょっと広場として考えるはあんまりやろう。まあ広場も少ないけど。要るよ。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 議員もおっしゃいますように、子どもたちの数も増えているといった中では、逆に遊具があることで遊びづらくなるということもあるのかなと思いついて、広く利用ができるようにといった点からも、何も置かないほうが、かえって遊びやすくなるのではないかなというふうに考えているところです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そうなると難しくなる。生徒が多ければ、じゃあ、高学年用の、あのがらがらと行く遊具とか全部撤去しますか。子どもたちが多いので遊具は要らないでしょう、広場があればそれでいいでしょうちゅう考えですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 現時点では、確かに広場ということではございますけれども、広く学校の意見等も聞きながら、今後また検討させていただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 最初からそう言ってほしかった。広場にして、あそこに芝生でも植えて、野菜でもつくるのか、それは大変ですよ、あそこ。広場にして、あそこに芝生を植えて、そして、夏はキュウリじゃなくて、ツタのあるような、光の入らないようなものをいろいろ植えたり、いろんなことをあその広場で活用しようと思えば、それはそれで大変ですよ。

やっぱり子どもたちが、わっと出て、わっと遊べるような、ちょっとした遊具は必要だと思いますので、よろしく検討のほどをお願いいたします。この件については、また、いつまでもあのままであるようであれば質問をいたします。以上です。

次に、駐車場の整備についてお尋ねします。

今、教職員、それから、あれは2つある学童の先生方、総人数は。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 立石小学校の関係者として、教職員や給食室の調理員あるいは学童の職員等々合わせまして79名いらっしゃいます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 車の台数は。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） ほとんどの方が、車での通勤をなさっていらっしゃいますので、最大79台ということです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 最大79台でしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 関係者としてはそういうことです。あとは、それに来客の方がいらっしゃったりとかということはあるかと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 来客も非常に多いようです。PTAのときなんか父兄が乗ってくる車とか、また雨降りのときに子どもたちを迎えに行くような父兄の車も多いでしょうし、なかなか難しいようですね。

大体どれくらい、1台につきどれくらいの広さを考えてありますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 駐車場の基本寸法としましては、1台当たり長さが5メートル、幅が2.5メートルの12.5平方メートルであるかと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 駐車場として確保されている面積はどれくらいでしょう。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 工事終了後のスペースとして現在考えておりますのが、正面玄関の前、あと立石学童4の前の一帯、あるいは給食室の前であるとかプールの周辺、西側とか南側、そういったものを含めまして、面積としては2,257平方メートル、そのうち駐車スペースとして利用できるのが約半分ほどになりますけれども1,062.5平方メートルということで、先ほどの79名を掛けますと987.5平方メートルになり、数字上では若干ではありますが6台ほどの余裕はあるといったところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 立石小学校の空き地を車でいっぱいにしようという考えですね。玄関前広場といい、周りといい、車だけでいっぱいにしようという考えですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 通路スペースも含めて、駐車スペースでとれるのが先ほど言いました1,000平米程度、また、現在増築を行いました新しい校舎の南側のほうも駐車スペースとして利用できるように整備をしたいというふうに考えておるところです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 要は余裕がないんですよ、立石小学校の敷地内に。あんな中によろしく学童を2つもつくりましたよ。学校も狭い、いや学校は大きい、土地は狭い中に、何でもまた学童を2つつくったのか。もうちょっと訳が分からない。

だから、何とか土地を買わなくっちゃ、せめて、駐車場用地をと私は思っているんですが、あの周りに駐車場スペース、もちろん非常に困つとも思いますよ。雨降りのときのお迎えの場所とか、それから、PTAのときの車の置場所とか、車については先生方も大変でしょうし、父兄の皆さんも大変だと思いますので、緊急に何かができるとは思いますが、何としても立石小学校の周りの敷地を一部でも購入してほしい、うんちゃ言われんけどしてほしいと思っております。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 確かに駐車スペースが、そうないということはこちらも承知をしておりますし、学校側のほうも、学校行事が行われる際には職員の車を立石コミュニティのほうに移動させて、若干のスペースをつくったりとかいった工夫もしていただいております。

また、駐車場が狭いといったこともありますので、子どもたちと車両が非常に近いところというようなことで、学校の敷地内において子どもたちの安全といったことも考える上では、保護者の方々には、なるべく車を利用しないで来校していただくような協力もお願いしたいなということで考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 校舎ができ、子どもたちが特別教室もちゃんと利用できて、こういうふうに勉強ができることは大変良かったです、増築をしていただいて。

でも、今後も立石小学校には、いろいろと課題がありますので、いろんな意見を聞いていき、私はここで報告したいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

時間が残りました、7分。次の避難行動要支援者名簿についてお尋ねをいたします。

先日、要支援者にコミュニティより個別訪問をして、何と調査票がそのまんまあるのに気がついたそうです。大体どうしてこれを出さんとなっち、その方に聞いたら、何が書いてあるか分からん、ほったらかしたまんまにしとるちゅう答えが返ってきたそうです。

この名簿、どれくらいの未回答があるのかは、私はよく分かりませんが、この未回答部分について、どのような対策をとられようとしているのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 避難行動要支援者名簿登録と個別避難計画作成の同意につい

ての調査につきましては、毎年2月頃に前回未回答者と新たに要件該当になられた方、合わせた約2,500人を対象に郵送させていただいております。

回答の到着は、4月から5月がピークとなるものの、その後も年間を通して御家族からの提出や返送で随時回答はあっております。

11月末時点の回答数は1,150人で、回答率は約40%となっております。

未回答者の方につきましては、毎年2月に前回未回答者として再調査の文書を郵送している状況です。ただ、本年度は、再調査に加えまして、要支援者と思われる方が未回答の場合は、調査内容が理解されていない場合もありますので、要介護認定者や福祉サービス利用者などにつきましては、介護サービス課や福祉事務所など関係部署と連携いたしまして、調査未回答の中でも自力避難が困難で支援が必要と思われる対象者につきましては、見守り支援や訪問面談の際に調査の回答をお願いしていくということとしております。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お願いします。多分、どげんしていいか分からんちゃん。どげんしていいか分からんし、そういう人こそ迎えに行かにやいかんと思いますので、そのあたりのことよろしくをお願いします。

それから、もう一点、保険、要支援者じゃなくて支援者に対する保険はないのでしょうかというようなことを何回か前に言っとったと思いますが、何とかしますちゅうまんま答えが返ってきておりませんので、そのお答えもお願いします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 支援をされる方に対する保障制度等について、保険会社に問い合わせをし、説明を受け内容を精査しまして検討を行ってまいりました。

保障などに対しまして、きちんとした対応がとれるよう制度化を具体的に検討しております。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 暮らしやすい朝倉市のために、皆さんの協力、皆さんの努力をよろしくをお願いします。

私の一般質問、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午後零時6分休憩